

| | |
|---|--|
| 1 学校教育目標 豊かな心を持ち、生き生きと自分の「よさ」を発揮できる湊っ子の育成 ～みんななかよし なんでも挑戦 とくいをのぼす 湊っ子～ | 2 本年度の重点項目 ①学力の向上を目指す ②充実した学校生活を目指す ③地域と共に歩む学校づくりを目指す。 |
|---|--|

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

①学力の向上を目指す。

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 |
|------|-----------|---|---|--|
| 教育活動 | ●学力の向上 | ・指導方法の改善 ・基礎基本の定着と活用力の向上 ・ICT利活用教育の推進 | ・学力向上アクションプランチェックシートによる評価の平均(昨年2.8)を3.2以上とする。 ・CRT検査において前年度比2ポイント以上向上させる。(1年～3年)、県学習状況調査において県平均以上をめざす。(4年～6年) ・ICT活用指導力アンケート(4段階評価)で職員の評価平均3以上とする。 ・保護者・児童アンケートで湊っ子宣言に関連する項目の支持・理解を70%以上とする。 | ・アクションプランチェックシートで、月に1回自らの授業を振り返りをする。 ・レディネステスト等を通じて児童の実態を把握し、個に応じた指導に活かし、課題解決に活用できる基礎・基本を身に付けさせる。 ・電子黒板等のICT機器の効果的な活用ができるように職員研修を行う。また、校内研究で、ICT利活用を視点に入れた授業研究会をおこなう。 ・児童には機会があるごとに、保護者には懇談会や通信等で、家庭学習の効果的な方法を紹介したりするなどし、「湊っ子宣言」を実践するコツを分かりやすく示す。 |
| | | ・湊っ子宣言の実施 | ・全職員が研究授業を1回以上実施し、事前、事後の研究の充実を図る。 ・全職員に自己目標に合った研修や研究発表の参加を進める。 | ・本校が取り組んでいる「児童進行」の授業スタイルに取り組んでいる先進校の公開授業等に積極的に参加をし、得た成果を共有し、指導力の向上を図る。 ・児童に授業の感想を書かせ、その結果を授業改善に生かす。 ・教育センターの講座や先進校の研究発表会を紹介し、参加する。 |
| 学校運営 | ○教職員の資質向上 | ・授業研究による指導力の向上 ・目標や課題に合った研修の推進 | ・全職員が研究授業を1回以上実施し、事前、事後の研究の充実を図る。 ・全職員に自己目標に合った研修や研究発表の参加を進める。 | ・本校が取り組んでいる「児童進行」の授業スタイルに取り組んでいる先進校の公開授業等に積極的に参加をし、得た成果を共有し、指導力の向上を図る。 ・児童に授業の感想を書かせ、その結果を授業改善に生かす。 ・教育センターの講座や先進校の研究発表会を紹介し、参加する。 |

②充実した学校生活を目指す。

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 |
|------------|---------------------------|--|--|--|
| 教育活動 | ●心の教育 | ・道徳教育の充実 | ・教育の日等に道徳授業の公開をする。 ・特別の教科道徳の指導と評価の一体化を図る。 | ・道徳教育で培ったことを他の場面にも生かせるように指導を工夫する。(特に、掃除や整理整頓) ・職員研修を行い、特別の教科道徳の評価の在り方や方法について共有を図る。 ・湊っ子宣言の振り返りをさせたり、児童会や青少年赤十字で取り組むあいさつに関わる運動など、意欲が継続できるように様々な取組を行ったりして、あいさつの習慣化を図る。 |
| | | ・あいさつの習慣化 | ・学校評価「元気な挨拶」の保護者、職員のできている評価80%とする。 ・児童アンケートの「いつでもありがとうがいえる」の評価を80%以上とする。 | ・学校の取組を機会がある度に紹介をして、育友会や地域の各種団体から評価を受けながら、「いつでも、どこでも、だれにでも」挨拶をする児童の育成を図る。 |
| | ●いじめ問題への対応 | ・早期発見・早期対応体制の充実 | ・相手の気持ちを考え助け合う仲間作りを推進する(縦割り班活動等)。 ・児童が、先生や友達へ持つ信頼度を85%以上とする。 ・「ぼく・わたしはいじめません。」という意識をもち続けさせる。 | ・生活アンケートを実施し、いじめの早期発見、早期対応を行う。また、週の職員連絡会や職員会議等で気になる児童についての情報交換を行う。 ・「Q-U」を活用し、自分をふり返ったり、相手を大事に考えたりする学級作りを行う。 ・毎月ピンクシャツデーを設け、いじめをしない、させない、許さないという意識づけを行う。 |
| | ●志を高める教育 | ・夢や目標をもち、その実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進 | ・児童アンケート「夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがある」と答える児童を60%以上にする。 | ・全校朝会や集会などで、教師やゲストティーチャーが夢をもつことの意義や素晴らしさについての話をしたり、特別の教科道徳の授業で、児童に夢や目標をもちそれを実現させるための方法や考えさせたりする。 ・夢や目標を教室や校内に掲示することで意識化を図る。 |
| ○特別支援教育の充実 | ・一人一人の個性や特性を生かした指導及び支援の充実 | ・特別支援に関する研修会を行い、専門性が向上したと教員の割合を80%以上にする。 ・ケース会議などを充実させ、支援が必要な児童に対して、個に応じた対応ができると答えられる教員を70%以上にする。 | ・研修会を行い専門的知識を深めることで、個に応じた立対応ができるようにする。 ・必要に応じ、ケース会議を開き、支援が必要な児童の情報を共有し、すべての教員が対応できる環境を整える。 | |
| 学校運営 | ○危機管理体制 | ・危機管理体制の整備と意識の向上 | ・各避難訓練を計画的に確実に実施する。 ・「はなまる連絡帳」の保護者登録を90%にする。 ・危機管理について職員の意識の向上を図る。 | ・危機に対応する行動を全児童・職員がとることができるように、実践的な危機管理マニュアルの作成や効果的な避難訓練を行う。 ・緊急避難体制の迅速化を図るために、「はなまる連絡帳」未登録の保護者に呼び掛けを行う。 ・職員会議において、適宜危機管理について話をする。 |

③地域と共に歩む学校づくりを目指す。

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 |
|------|----------------|-----------------------------|--|--|
| 学校運営 | ○地域とともにある学校づくり | ・地域人材の活用や地域との交流 ・学校情報の公開 | ・地域人材を、各学年で年間2回以上活用する。 ・学校HPの更新を定期的に行い、地域、保護者が見たくなる情報を公開する。 | ・公民館、地域団体、農協、漁協などとの連携を図り、体験活動を展開する。 ・神集島への交流を各学校行い、地域に親しむ心を育てる。 ・学校の行事予定、行事の報告を月に2回程度更新する。 |

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 |
|------|--------------------|------------------------------------|--|---|
| 教育活動 | ○読書活動 | ・読書習慣の確立 | ・本の貸し出し目標の達成率を85%以上とする。(1・2年100冊、3・4年80冊、5・6年60冊) | ・「となみ」の支援を受け読み語りをを行う。 ・市の図書館より学期ごとに50冊学級図書用に借りる。 ・貸出目標に到達した児童には、毎学期、図書委員会が賞状を渡し、意欲を高める。 |
| | ●健康・体づくり | ・望ましい生活習慣の形成と自己管理能力の育成 | ・生活リズムの改善をすすめる。(「早寝：「930、10運動」の達成率60%以上) ・日常的な歯や風邪の予防をすすめる。 ・県主催のスポーツチャレンジに積極的に参加することで、体力作りの向上を図る。 | ・家庭と連携して、早寝に取り組む期間を設定する。 ・歯磨き、手洗い、うがいの励行に向け、養護教諭と連携して保健指導を行う。 ・体育の時間にスポーツチャレンジの運動を取り入れ体力の向上を図る。 |
| 学校運営 | ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ・校務等の効率化の推進 ・働き方に関する教職員の意識改革と実践 | ・学期ごとの1ヶ月当たりの教職員の時間外勤務時間「40時間未満」の達成率を100%にする。 ・働き方改革について、全職員に目標をもたせ、実践する。 | ・職員会議等、各種会議の内容を見直し、会議の回数や時間の削減を図る。 ・各教職員の勤務時間を教職員自身に把握させ、各々の業務改善の指標とさせ、セルフマネジメント力を養う。 |